

東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ（国）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2022年5月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

5月の東カリブ諸国機構（OECS）6カ国（注）の内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

（注：アンティグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ（国）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

1. 概況

- グレナダ及びセントキッツで解散総選挙へ。グレナダでは6月23日に選挙実施、セントキッツでは8月11日までに実施。
- セントビンセントでは、ゴンザルベス統一労働党党首（首相）の後継選びへ。同首相は、後継者問題で混乱することはないと述べている。また、同首相は、ベネズエラを訪問し、ALBA銀行より900百万米ドルの借り換えの承認を得た。ゴンザルベス財務相は、そのうち400万米ドルで漁船購入を予定していると述べた。
- アンティグアでは記録的な渇水が続き、深刻化。
- セントルシアで、JICAがサー・アーサー・ルイス・コミュニティ・カレッジに対し32冊の本を寄贈。
- グレナダ、セントルシアで、LPガス価格が引き上げられた。ガソリンは据え置き。
- ドミニカ国の大学で中国語及び文化を学習する目的とした孔子学院が開校。
- 今のところOECS各国ではサル痘の発生は確認されていないが、各国の保健当局は世界のサル痘発生状況を注視している。

2. 内政

（1）新型コロナウイルス

- （6日アンティグア報道）ワクチン完全接種者数は、61,815人。
- （10日ドミニカ国報道）保健省は、マスク着用義務の見直しをするも、着用

を勧める旨を発表。

- （１１日グレナダ報道）ミッチェル首相は、新型コロナウイルスの規制解除後も、感染対策について油断がないようにと国民に対して忠告した。
- （１２日セントルシア報道）政府は、学校に通う児童の層において、第六波となる感染増加が見込まれる旨を発表した。
- （１３日セントルシア保健省発表）ワクチン完全接種者は、５３，７０１人。ブースター接種者は、７，３２６人。
- （１３日ドミニカ国報道）ワクチン完全接種者は、３０，２５３人。
- （１５日アンティグア報道）ワクチン完全接種者は、６１，８８２人。
- （１８日セントルシア報道）ヒライレ観光大臣は、７月中に、２０１９年と同規模のカーニバルの再開を予定している旨を発表した。
- （２５日セントビンセント報道）米疾病対策予防センター（CDC）が、セントビンセントを高リスク国に追加。
- （２６日セントルシア報道）セントルシア航空港湾局は、保健省の指導のもと、搭乗者に対する出発時の検温の廃止や、見送り者のターミナルやレストランの利用許可などを発表した。

（２）その他内政

- （３日アンティグア報道）ブラウン首相は、来年の総選挙を前倒しして数か月以内に実施する可能性があると発言。他方、野党統一進歩党（U P P）は既に２、３か月前から総選挙キャンペーンに取り組んでいる。
- （４日セントキッツ報道）連立与党のうち６閣僚が先月シートン総督に送った書簡（ハリス首相は内閣の支持を失ったとして同首相の更迭を求めるもの）に対して、同総督は、憲法によると総督には首相を更迭する権限はない旨を回答。
（注）連立与党：ハリス首相率いる人民労働党（P L P）、リチャード副首相率いる国民行動党（P A M）、ブラントリー外相率いる市民有志運動（C C M）
- （７日アンティグア報道）３月には例年以上の降水量があったが、天水及び地下水が恒常的に不足しており、５月末には大きな影響が懸念される。
- （１０日セントキッツ報道）ハリス首相はシートン総督に議会解散及び６閣僚の解任を要請。憲法上は８月１１日までに総選挙が実施されることになる。
- （１５日セントビンセント報道）ゴンザルベス首相（与党統一労働党（U L P）党首）は、７月３１日のU L P党大会で新しい党首と副党首を選出するかもしれない、後継者問題で混乱することはないと述べた。
- （１５日グレナダ報道）ミッチェル首相が、総選挙を６月２３日に実施する、既にグレナード総督に対して５月１６日付けで議会解散、１７日付けで選挙実施を公示するよう要請済みであると発表。

- （１９日グレナダ報道）ミッチェル首相兼ＩＣＴ担当相は、国家サイバー安全保障事案対応チーム（ＣＳＩＲＴ）を発足させた。同チームはサイバー安全保障に関連する支援や助言について中心的な役割を担う。
- （２０日セントキッツ報道）総選挙の日程は未だ発表されていないが、各政党は選挙に向けて候補者発表や地域住民へのヒアリング等の事前準備を開始している。
- （２３日セントルシア報道）保健省は世界におけるサル痘の発生状況を注視しているが、現時点では国内における発生は確認されていない。
- （２４日グレナダ報道）保健省は世界におけるサル痘の発生状況を注視している。
- （２５日セントキッツ政府発表）政府の給与所得者と年金受給者に対して、１０％増額された給与・年金が１月１日に遡及して支払われた。ウクライナ紛争の影響等による生活費の増加対策としてハリス首相が発表していた公約の一つ。
- （２６日セントキッツ報道）ＷＨＯや米国ＣＤＣがサル痘の発生状況を注視している。
- （２６日アンティグア報道）政府は、サル痘の兆候がある場合は保健当局に支援を求めるよう国民に呼びかけた。

３．経済

- （３日セントビンセント報道）ゴンザルベス首相のベネズエラ訪問の成果として、アルバ銀行より９００万米ドルの借り換えの承認を得た。ゴンザルベス財務相は、そのうち４００万米ドルで漁船購入を予定していると述べた。
- （３日セントキッツ報道）ハリス首相は、インフレ圧力緩和のため、燃料の輸入税及び非商業目的の食料品輸入税の減免を９月まで実施すると述べた。
- （３日ドミニカ報道）政府は、高騰するガソリンへの補助金を抛出すると発表。
- （４日セントビンセント報道）世界銀行は、東カリブ諸国に対し、ブルーエコノミーの推進を目的とした５６００万米ドル融資を決定した。うち１５００万ドルがセントビンセントに充てられる。また、PROBLUE 複数ドナー信託基金より１００万ドルの無償資金協力を受ける。
- （４日ＯＥＣＳ報道）ＯＥＣＳ諸国は、集落を基盤とした観光を有望な市場であることを確認した。この分野では、ＥＵよりＯＥＣＳに対するＲＩＧＨＴプログラム（成長、調和技術を通じた地域統合）で支援を受けグレナダ、セントルシア、セントビンセント、セントキッツが裨益している。またＥＵはＵＮＣＴＡＤ及びワシントン条約を通じ、グレナダ、セントルシア、セントビンセントでクイーン・コンク貝のバリューチェーンプロジェクトを支援中。
- （４日ドミニカ報道）投資による市民権プログラム（ＣＩＰ／ＣＢＩ）を有す

る諸国の投資家代表たちは、同プログラムを有する諸国はE U議会に対して同プログラムの重要性を訴えるべきだと述べた。

●（5日セントルシア報道）台湾の技術支援チームは、スイカとアップル・メロンの新品種の栽培を試験的に実施中。

●（5日アンティグア報道）政府は、3月にガロン当たりディーゼルを15.50ドル、ガソリンを15.70ドルに引き上げたが、輸入コストを抑えられたことを理由に4月22日以降それぞれ0.27ドル、0.55ドル引き下げた。

●（5日ドミニカ報道）ドミニカ商工協会とIOMは、米国国務省の支援により同国在住のハイチ人起業家への支援セミナーを行った。

●（6日セントルシア報道）JICAがサー・アーサールイス・コミュニティ・カレッジに対し32冊の本を寄贈。

●（6日セントビンセント報道）台湾の藍夏禮大使がベキア中学校で奨学金を贈呈。奨学金の第二フェーズでは20校が裨益する。台湾の本奨学金支援は、12万米ドル相当。

●（6日OECS）4月26日～28日、EUがセントルシアを訪問し、セントルシア政府及びOECSと協議、気候変動及び再生可能エネルギー関連の協力実施サイトを訪問した。

●（7日アンティグア報道）カリブ気象水文学研究所は、3月には例年以上の雨量が懸念されたが、一部地域では干ばつの懸念があると発表した。

●（8日セントビンセント報道）ゴンザルベス首相は、2020年に成功しなかった地熱発電の試掘をカナダの業者を通じて再度試みる予定であると述べた。

●（10日セントルシア報道）台湾が、セントジョセフ中学校にテレビスクリーン、カメラ、スピーカー、マイク、デスクトップ等を寄贈。

●（10日IMF発表）4日、IMFは、グレナダにおける4条協議を終了した。成長率は、20年の▲20%から21年には建設業と農業の寄与により、5.6%であったと予測。22年は3.6%の予測。

●（11日アンティグア報道）4月28～29日、UNDPはバーブーダ島においてアンティグアの建築基準に沿った建築構造、ハリケーンへの耐久性等に係る研修を実施し、24名が参加した。

●（16日アンティグア報道）マーシャル農相は、多目的センターで農民との対話集会に出席し、小規模農民支援プログラムを説明したが、農民からは水不足と盗難対策等への支援不足につき苦言がなされた。

●（16日セントルシア報道）セントルシア政府は、地方選挙区プロジェクトのために台湾から1850万ドルを受領した。チェン駐セントルシア台湾大使が会計検査院長に小切手を贈呈した。

●（16日セントルシア報道）ピエール首相は、台湾より地域プロジェクトに1

850万ドルの支援を受領、国庫で管理し、小規模インフラプロジェクトに充てられると述べた。

●（17日ドミニカ報道）2017年のハリケーン・マリアの被害に対し、カナダ、カリブ開発銀行（CDB）及び政府の支援を受けて実施した気候への強靱性と回復プロジェクトによって大規模修復した4つの学校のうち3小学校が完成。

●（17日グレナダ報道）18日より燃料価格のうち、LPガスの100ポンド容器を299.40から333.15ドルに、同ポンド当たりバルク価格を3.10から3.40に引き上げる。ガソリン、LPガス小シリンダーは変更なし。

●（17日セントキッツ報道）ブラントリー・ネービス島行政長官は、22から24年にかけて公務員給与と年金を15%引き上げると述べた。

●（17日セントビンセント報道）外務省は、EUによるカリブ開発銀行（CDB）の25万ユーロの支援を通じて、サービス提供者の輸出許可証の標準化、畜産と貿易の食料安全システムプロジェクトを実施すると発表。

●（17日ドミニカ報道）ブレンダ・ストラッフォード基金の支援によりドミニカ・中国友好病院内に眼科センターが開所した。

●（18日セントビンセント報道）ユニオン島のクリフトン湾に大量のサルガッサム海藻が漂着している。

●（19日セントキッツ報道）21年7月から3年間の予定で実施中の台湾の支援による廃棄物リサイクルプロジェクトはすでに海岸の清掃等の活動を実施している。6月4日は環境局と共同で世界環境デーの行事開催を予定。

●（19日セントキッツ報道）UNFPAとILOは、カリブ18か国130名に対しジェンダーバイオレンスに関するワークショップを実施した。

●（20日グレナダ報道）中国はグレナダ警察（RGPF）にパンデミック防止資材と事務用品一式を寄贈した。医療用マスク、検査用手袋、アイシールド等のPPEや、警察官の業務を円滑にする事務用品等。

●（22日セントルシア報道）USAIDとUNDPは、カリブ地域における暴力と犯罪削減のためのCariSECUREプログラムを継続して実施していくことを確認した。

●（23日セントキッツ報道）ネービス島政府と台湾が主催した10日間の美容起業セミナーを終えた24人の女性が、美容業界での起業や事業強化に向けて力を発揮している。

●（23日ドミニカ報道）スケリット首相は、21年6月にモントリオール管理コンサルタント・エスタブリッシュメント（MMCE）との間で署名した10億ドルの国際空港事務所施設の建設に関し、建設計画が完成しつつあると述べた。

●（23日ガイアナ報道）スケリット首相はガイアナで行われた農業投資フォーラムに出席し、カリブ地域がより農業に目を向けるよう呼びかけた。また、カリ

ブ地域のスーパーにおいて域内産商品の販売を義務付けるべきだと述べた。

●（２２日セントルシア報道）政府は２３日付で、一部燃料価格の引き上げを発表した。ディーゼルを３．５７ドルから３．６５ドルへ、ＬＰガス２０ポンド容器４２．９３から４３．８４ドル等に変更。ガソリンに変更なし。

●（２２日セントビンセント報道）ゴンザルベス首相は、１９８７年に日本の支援により建設されたキングストンのバスターミナル、リトルトーキョーをベネズエラからの借り入れ５百万米ドルで改築すると述べた。

●（２３日ガイアナ報道）ブラウン・アンティグア首相は、ガイアナで行われた農業投資フォーラムに出席し、地域が取り組まねばならないのは、輸送手段の充実化であると述べた。

●（２３日アンティグア報道）ブラウン首相は、アリ・ガイアナ大統領と観光、金融サービス、農業、エネルギー、航空輸送を含む８分野での協力を促進するための覚書に署名した。

●（２３日セントキッツ報道）リン台湾大使は、現地紙に寄稿し、台湾はコロナ禍で自国民だけでなく世界に様々な貢献をしており、ＷＨＯへの参加が求められるべきで、諸国に対しそのための支援を求めると述べた。

●（２３日セントキッツ報道）台湾はネービス島の起業家ユニットを通じて、女性の雇用、起業家、金融包摂プロジェクトの一環として、２４名の女性起業家に対してセミナーを行った。

●（２４日グレナダ報道）ＪＰモルガン社は、ウクライナ・ロシア問題を原因として、新興債務国の国債の１０％がジャンク債になる可能性があるとして、その中にグレナダが含まれていると発表

●（２５日ドミニカ政府発表）ヘンダーソン計画相は、世銀の支援を受けて実施中の地熱発電プロジェクトを訪れ、小規模発電所は２０２４年中ごろに完成し、グリッドに接続されるだろうと述べた。

●（２６日ドミニカ報道）ＥＵの支援によるキャッスル・ブルース地域研修避難所が完成し、完成式にスケリット首相が出席した。

●（３０日ドミニカ報道）カナダから災害管理事務所（ＯＤＭ）に対する、カプチン地域避難所の引渡しが行われた。

●（３０日セントキッツ報道）ブラントリー・ネービス島行政長官は、米国より多目的研究所建設の支援を受ける、２５日、米国南方指令軍２名がサイト選定調査のため、同島を訪問したと述べた。

４．外交

●（３日セントキッツ報道）リチャーズ副首相は、総選挙で勝利した場合の優先事項の１つとして、共和制への移行があり得ると述べた。

- （3日グレナダ報道）東カリブ（O E C S）諸国は、英領バージン諸島を英国政府が直轄統治するとの計画に懸念を表明した。
- （5日グレナダ報道）ミッチェル首相が先般提唱した米・カリブ諸国首脳間の年次協議開催について、米国副大統領は同年次協議が開催されることになる」と述べた。同首相は米の姿勢を歓迎しつつも、価値ある成果を残すことが重要と指摘した。
- （8日セントビンセント報道）米のベネズエラ及びキューバに対する処遇次第で、カリコム諸国の首脳は6月にロサンゼルスで開催される米州サミットを欠席する可能性がある。
- （8～23日セントビンセント他報道）コビンド印大統領が18～21日にセントビンセントを訪問。印の大統領によるカリブ地域初訪問の一環。ドーガン総督やゴンザルベス首相と会談予定。印とセントビンセントは2021年に国連安全保障理事会非常任理事国で、この期間に良好な協力関係を共有した。両国は情報交換と徴税の自動化に関する覚書、及び、保健医療に関する覚書に署名。また、大統領夫人は特別支援学校に2万5千米ドルの小切手を贈呈した。ゴンザルベスは、2023年までに印との二国間貿易を拡大し、デリーに外交使節を開設すると述べた。
- （9日トリニダード・トバゴ報道）ブラウン・アンティグア首相及びゴンザルベス・セントビンセント首相は6月にロサンゼルスで開催される米州サミットにグアイド・ベネズエラ暫定大統領が招かれる可能性、及び、ディアス＝カネル・キューバ国家評議会議長が除外される可能性を批判的に発言。
- （11日アンティグア報道）ブラウン首相は、カリコム諸国が米州サミットをボイコットするかどうかは未だ決定されていない、どのような決定が下されてもカリコム諸国の対応は統一されたものでなければならないと述べた。
- （12日O E C S発表）6日にキューバで発生した爆発に対して、O E C Sはキューバに対して弔意を表した。
- （22日セントビンセント報道）6月の米州サミットへの出席問題は、カリコム首脳間で依然として論争の的となっている。ゴンザルベス首相は、キューバ、ベネズエラ、ニカラグアが招待されない限り、米州サミットに出席しないよう加盟国に強く求めていると述べた。
- （22日ガイアナ政府発表）ガイアナとアンティグア・バーブーダは経済協力に関する覚書に署名。観光、金融サービス、農業、航空輸送、エネルギー等8分野での経済協力に関するもの。
- （24日トリニダード・トバゴ報道）再任を目指すスコットランド英連邦事務総長がカリコム諸国訪問の一環としてセントキッツに到着。この後、ドミニカ国、アンティグア・バーブーダ、セントルシアも訪問予定。

- （２６日セントビンセント報道）キューバ訪問中のゴンザルベス首相は、両国の外交関係樹立３０周年に併せて、キューバ政府からホセ・マルティ勲章を授与された。同首相は、自分の人格は反帝国主義の思想とマルティの思想に基づいた数十年にわたる活動で培われたと述べた。
- （３０日ドミニカ報道）２６日、ドミニカ国大学で中国語及び文化を学習する目的とした孔子学院が開校した。

（了）